

平塚市の都市化

安 田 みち子

神奈川県中央部に位置する平塚市は、相模川および大山に発する小河川、すなわち鈴川・渋田川等と金目川に埋積された沖積平野に位置し、南端は相模湾に接している。

かなり古い時代から街道に沿っていたらしく、特に江戸時代には東海道の一宿駅として繁栄していた。明治になってからは気候温和な保養地として、あるいはまた軽工業都市として発展のきざしを見せた。第2次大戦後は、軍需工業都市から商業都市へと変化し、湘南地方の中心都市として、また東京の衛星都市としての2つの性格を持つ都市として発展してきた。本論文ではこの2つの性格を人口や産業の面で考察した。

平塚市の人口は昭和43年10月1日現在151,329人で、前年比4.4%の増加率を示している。毎年4~5%の増加率を示しているが、転入によるものが多い。転入者の前住地が神奈川県内および東京都に多いことや、通勤の人口移動をみると、まさに東京の衛星都市としての性格を表わしているといえよう。そしてこの傾向は、さらに続くものと思われ、平塚市内の都市化は既成市街地から、その周辺地域である神田・大野地区、小田急線に近い金目に著しい。

次に、商業を通して平塚市の特徴を考察する。仙台と並んで有名な平塚の七夕は平塚の商業の側面を表わしていると言ってもよい。昭和43年7月1日現在2,851商店を数え、33年に比べると店舗数で48.4%、従業者数で93.9%、年間販売額では438.4%各々増である。平塚の商業を支えるものは地方の中心都市としての性格であろうと思われる。近年、京浜地域の影響が大きくなり、交通機関の発達に伴ってますますその傾向が強くなってきているが、なお伊勢原・山地などの内陸部には依然として強い勢力をもっており、相模川以東に比べると安定した商圏をもっている。しかし京浜地域との結びつきが強まることを考慮して、対応していかなければならないことは云うまでもない。

農業では一般的傾向として農家数の激減・兼業化・栽培作物の変化が見られる。農家の減少率を地域的にみると、市街地、および工場進出・宅地化の盛んな神田・大野・金目地区に高い。

平塚市の市街化区域は、東海道本線の南北に連なる既成市街地、およびこの西北部に広がる周辺市街地・馬八工業団地・中原工業団地・東海大学周辺そして新たに岡崎・旭地区を設定した。横浜・東京と結びつける東西方向の路線に加えて、内陸部と平塚の市街地とを結ぶ南北方向の路線が整備されつつある。このことが平塚の商業にどのような力を持っているか、また新たに宅地化される地域をどのように平塚市内に結びつけるかが今後の問題といえよう。